



平成22年度(財)岩手県体育協会選手強化事業 地域貢献活動の取り組み

岩手県バスケットボール協会

バスケットボール少年女子国体選抜チームは、ミニ国体の会場である奥州市総合体育館(Zアリーナ)周辺のゴミ拾いを行いました。競技が始まる8月21日(土)の前々日から会場準備と最終調整を図るためこの会場を使用しました。19日(木)の調整練習終了後、16時から30分程度活動しました。

会場のZアリーナはバスケットボールコートが4面使用できるとても大きくて充実した会場で、駐車場も数多くあります。敷地内は草木が生い茂っていますが、手入れが行き届いておりとても美しい景観です。

体育館周辺の通路や駐車場までの通路を念入りにゴミ拾いしました。一見、ゴミなどなさそうな整備された通路でも、草木の根元や歩いただけでは目がいけないような細かいところまで見てみるとゴミがたくさんあり驚きました。普段から運動部でしっかりと指導を受けている選手ばかりですから、細部にわたる気配りができる生徒たちです。また、どんなごみでも嫌がらず、せつせと働く姿は立派でした。

体育館周辺を一周りしたところで、体育館に一番近い駐車場のゴミ拾いがはじまりました。役員の駐車場であることを知っていたのかはわかりませんが、指示はしていない場所まで自主的にゴミを拾う選手がおり、それに続いてみんなでもまたゴミを拾い出し、とスポーツにおいて重要な精神を垣間見ることができました。

駐車場で意外にも多かったゴミがペットボトルでした。紙くすではないので気付かずに落としたものとは思えません。故意に捨てたものなのかと考えると少しショックを受け



た選手もいたようです。車で来る大人のマナーに疑問を抱きました。スポーツをしに体育館に足を運ぶ人とは限りません。観戦に来る方もたくさんいるはずで。スポーツにかかわる場でのマナーや常識など改めて考えさせられました。

こういった活動が、メディア等でたくさん明るみになることを期待しています。選手達が試合前に頑張った活動によって、スポーツをする人もしない人にも、何かを考えてもらえる機会となることを期待しています。



今年度の少年女子国体選抜チームは、遠征などでもみんな同じ服装で統一しました。このゴミ拾いも全員同じ服装です。常にチームワークを意識することを狙いとしています。

岩手県体操協会

美しさが採点の基準になるスポーツがあります。スポーツとしての、技術、テクニックはもちろんですが、演技の優雅さや華麗さ、審美性というものが重要視されるのが、芸術スポーツです。芸術スポーツは音楽と一体となり、全身をつかって豊かに表現されるので、見せる要素が強いスポーツといえます。新体操、体操の床運動、シンクロナイズドスイミング、フィギュアスケート、バントワリング、チアリーディング、エアロビック、一輪車などが挙げられます。

新体操は、トップレベルの選手の競技会でもテレビでなかなか取り上げてもらえず、ハッキリ言ってしまえばメジャーなスポーツではありません。しかし昔、「タッチ」という漫

画が流行し、テレビ放映されたのを機に人気上昇したように思います。そのアニメのヒロインが新体操をしていたことで、首都圏では「みなみちゃんを捜せ」というニュース番組でのコーナーが合ったほどです。現在東京都のクラブチームとしては100を超える団体が存在するほどになっています。



岩手県ではまだまだ競技人口が少ないので、普及活動の一端として県内の新体操チームが演技会を行っています。また練習試合が出来ない競技であるため、選手に経験を積ませる為に演技会を開催することも多くなりました。そこで、県内各地域で様々な演技会を開催して頂き、地域のみなさまと交流する機会をもつことが出来ました。新体操の演技発表の間に、地域で盛んなスポーツの披露があったり、歌や楽器演奏があったりと、楽団の成果発表として地域参加型の演技会になっている演技会もあります。

私の指導している北上翔南高校の新体操部では競技種目だけではなく、新体操の要素を取り入れ、扇や鈴、布などを用いて集団演技を創作して、地域のお祭りに毎年参加したり様々なイベントで踊らせて頂いています。依頼があれば野外で踊ることもあります。そのようにして、多くのみなさまに新体操という競技を応援していただいております。

老人保健施設の慰問は、部員たちの希望により実現したのですが、数々の活動の中で部員たちは成長していきます。出逢いを大切に、発表のチャンスをいただけるようになり、必ずしも体育館だけが活動の場所ではないということを見ました。応援して下さる地域の方々に新体操を通じて自分たちが出来ることは何かを問い続け、色々な手段や方法を模索しています。そして活動の後には、感想文を送らせていただいています。また地域の児童館で演技会やミニ講習会をすることもあります。女兒はもちろんのこと、男児も女子新体操ならではの「リボン」をリズムに合わせて一生懸命するのです。

北上市内で行われた中部地区幼稚園の親子レクでは、たくさんの親子が集まる中、歌詞に合わせて全員で歌って踊

りました。体ほぐしを行いながら、のびのびと、そして親子のスキンシップをテーマに「たらしら」という音楽にのってみんなで楽しみました。この曲は岩手出身のアンダーパスさんの曲で岩手が表現されています。部員が親役・子供役にわかれて見本を示しながら参加者と共に創作し、多くの親子と触れ合うことが出来ました。

児童においては、スポーツ離れや体力の低下が問題視されるようになり、コーディネーショントレーニングというものが出現してきました。コーディネーショントレーニングのライセンス取得の講習を受講した際、コーディネーショントレーニング協会理事長であり、順天堂大学助教授の東根明人先生と出逢うことが出来ました。東根先生は岩手県出身であり、コーディネーショントレーニングの第一人者です。ドイツで学び、日本での普及・啓蒙活動に取り組んでおられます。先生からは「新体操自体がコーディネーショントレーニングです」というお話を頂きました。新体操という競技は、ジャンプ・バランス・ピボット(回転要素)・柔軟波動といったものが競技中の必須であり、さらに道具(ロープ・フープ・ボール・クラブ・リボン)を使って投げ・受け・突き・転がしをし、そこに音楽を伴って、より美しさを求めますから非常に脳を使うスポーツであり、集中力を高めるスポーツです。

これは余談ですが先日新聞掲載にも、踊りをしている人は認知症になる確立が低いという記事がありました。そこに新体操は道具を用いるわけですから、なおのことだと思っております。

新体操は子供から大人まで、生涯スポーツの役割を担っていけないのではないかという考えのもとに、これからも多くの地域でみなさまに感動を伝えていけるよう工夫しながら、平成28年の岩手国体に向けて盛り上げて行きたいと考えています。

岩手県ハンドボール協会

今年度は少年男子が7月に1回、地域貢献活動を行った。

今年度からの事業でどのように活動して良いかわからなかったが、練習会場でお世話になっていた富士大学スポーツセンター内の窓拭きと駐車場のゴミ拾いを行った。普段使い慣れている体育館であるが、意外と窓の数が多く非常に高いところまであがらないと掃除ができなかったのでも大変であった。選手は普段競技力向上へのトレーニングばかりを考えて体育館に来ているが、多くの方々に支えられて最高の環境でトレーニングできていることを再確認することができた。



協力しながら体育館の大きな窓を磨く選手たち(岩手日報2010年7月26日付)

また、思っていた以上にゴミが集まり今後も全国大会が続く会場であり、環境面に気を配ることを再認識した。清掃活動は炎天下の中で行い練習以上に大変な部分もあり、チームで協力する大切さも学ぶことができた。

その後の沖縄インターハイでは不来方高校が第3位に入り、結果的に気持ちを整えて大会に向かうことができたのではないだろうか。

今後も地域に応援して頂けるようなチームを目指して頑張っていきたい。

岩手県サッカー協会

(社)岩手県サッカー協会は、平成22年度(財)岩手県体育協会の選手強化事業において次の社会貢献活動を実施しました。

サッカーは、成年男子・女子・少年男子の3カテゴリーで活動しています。成年男子はグルージャ盛岡を中心とし、女子は中学生から社会人まで多年代に渡って選手を集め強化を行い、少年男子は、U-16ということから中学生と高校生を一緒に集めた活動となっています。競技の特性上、練習でもある程度の人数を集めることが必要なため、普段の活動の中から日程を調整しなければなりません。

その中、(財)岩手県体育協会の新たな取り組みである「社会貢献活動」として、成年男子は強化練習会を行った8

月7日、普段利用している「盛岡南公園球技場」の周辺を、チーム全員でゴミ拾いを行い施設の美化に努めました。少年男子は、東北総体前の8月12日、強化合宿で宿泊先であったホテル東日本と盛岡駅の間でゴミ拾いを行いました。盛岡南公園は普段より各種大会が行われており、県内各地から多くの方々が試合を観戦に来場しています。2016年の岩手国体に向けて、地域・県内一体となってスポーツが盛り上がりつつあるためにも少しでもきれいな環境で観戦してほしいと思います。そして「駅」は通勤通学だけでなく観光の足となる重要な拠点です。県内外から多くの方が訪れる最初の一步が心地よいものとなるよう今後も努めていきたいと思っています。

また女子は、強化練習会を行った8月7日に、(社)岩手県サッカー協会が行っているキッズエリートプログラム奥州の活動にスタッフとして参加しました。この活動は、(財)日本サッカー協会のプレジデントミッションの1つとして、キッズ年代からの積極的な活動を通じて選手の個の強化、更には上の年代に向けた一貫した養成システムの確立を目的として行っているものです。岩手では「もっとサッカーをしたい子どもたち」を対象に県内2ヶ所(盛岡・奥州)で、6年前より行っています。2016年の岩手国体の主となる選手の卵であるこの子供たちにとってトップレベルの選手とふれあうことは、将来の目標になる貴重な機会となったと思います。また参加した選手にも、いつもとは逆の指導者としての経験が将来の女子サッカーを作る人となる可能性を生んだのではないかと思います。

いつもの強化事業では対象となる年代の選手のみでの事業で、地域や年代の広がりをもつことが中々できてこなかったと思います。今回の新しい取り組みによってできたこの経験は、選手だけでなくスタッフにとって貴重な機会となりました。今後も継続して、岩手でのサッカー、スポーツの振興に貢献できればと思っています。



ゴミ袋を手に清掃活動に取り組む高校サッカーの選手(岩手日報2010年8月12日付)